

1 学校教育目標

あい あしのこ 「学びあい・みとめあい・みがきあい」



5 総括表

2 学校経営ビジョン

(1) めざす学校の姿

明るく、楽しい学校	いきいきと活動する学校	安全で、安心な学校
-----------	-------------	-----------

(2) 教育目標達成のための基本方針

「確かな学力」の保証	「心の教育」の充実	「生きる力」の育成	「開かれた学校」づくり
<ul style="list-style-type: none"> ○「読み・書き・計算」等の基礎力の育成 ○基本的学習習慣の定着 ○学びあい等指導方法の工夫 ○ICT利活用教育の推進 ○小中連携による学力向上(小中一貫に向けた研究) ○家庭学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育・人権教育の充実 ○教育相談、特別支援教育体制の充実 ○人としての「あいいうえお」の育成 ○「あいさつ」「ことばづかい」の指導 ○読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣や規範意識の育成 ○命・健康・安全教育の推進 ○体験的活動や勤労奉仕的な活動の実践 ○ふるさと学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報発信と収集 ○家庭(P.T.A)・学校評議員・地域諸機関との連携 ○学校評価の改善と公表 ○学校・地域ボランティアの推進(学校地域夢つなぎ隊の活用)

めざす教師の姿(教育あい)	めざす子どもの姿(自分あい)	めざす家庭の姿(子どもあい)
<ul style="list-style-type: none"> ☆笑顔と活気のある教師 ☆一人一人の子どもたちを大切にしている教師 ☆指導力の向上に努め、創造性豊かな教師 ☆信頼される教師 	<ul style="list-style-type: none"> ◎あかるく、礼儀正しい子ども ◎しっかり学びあい、考える子ども ◎のびのびと、たくましい子ども ◎こまったときは、助け合う子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ◇基本的生活習慣(芦刈家庭教育指針)の育成に取り組む家庭 ◇子どもの「やすらぎの場」としての家庭づくり ◇積極的な来校と連携・協力をする保護者(学校ボランティア活動等)

3 本年度の重点目標 : 4 前年度の成果と課題

<p>1 「確かな学力」 - 基礎基本の定着と学力の向上</p> <p>2 「心の教育」 - 教育相談の体制作りと充実</p> <p>3 「生きる力の育成」 - 基本的な生活・学習習慣の定着</p> <p>4 「開かれた学校」 - 家庭・地域・保護者との連携</p>	<p>1 「確かな学力」- 基礎基本の定着と学力の向上 全国や県の学習状況調査では全国平均を上まわっており、学力向上の目標を達成できた。国語ではBがより高く、国語への関心・意欲・態度も高い。文章量の多い資料からの必要な情報の読み取りにやや課題がある。算数A、Bも全国平均を大きく上回っている。のびのびタイムや習熟の時間など基礎的な計算力を身につける学習とともに、考える授業づくりに力を入れ、個に応じたきめ細かな指導を継続する。</p> <p>2 「心の教育」- 教育相談の体制作りと充実 教育相談研修会を定期的実施し、市子ども支援センターやスクールカウンセラーとの連携を図ることができた。人権集会やなかよしアンケートを実施して児童の人権意識を高めた。学校が楽しいと答えた児童97%の一方、相談する友達がないと答えた児童もあり、今後も気軽に話せる教育相談体制を整備し、掲示コーナーを設置したりする。</p> <p>3 「生きる力の育成」- 基本的な生活習慣、学習習慣の定着 基本的な生活習慣の定着のため、芦刈町内幼・小・中学校共通の「家庭教育指針」がある。本校は年間7回の「家庭教育指針強化週間」を設け、学校と家庭が連携して取り組んでいる。早寝、早起き、朝ごはん、挨拶の励行など基本的な生活習慣が向上し、家庭学習の習慣もよくなった。就寝時刻の遅さが課題である。</p> <p>4 「開かれた学校」- 家庭・地域・保護者との連携 「学校だより」「小中一貫だより」「きめ細かな指導だより」「学級通信」等により情報を伝えている。学校支援ボランティアの活動も一層充実してきた。その活動は多方面に広がり、登録が170人関与授業数は43を教えた。この方々によって地域へ情報を発信したり地域の声も聞きとったりできている。</p>
---	--

5 総括表					
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	
教育活動	①「確かな学力」基礎基本の定着と学力の向上	●学力向上	基礎・基本の定着と確かな学力の向上	「読み、書き、計算」力の育成 CRT(算数)3観点(関心・意欲・態度除く)で全国比2ポイント以上をめざす。 教師の授業力を向上させる。 現在の豊かな個人読書量を維持する。	・特設タイム(読みときタイム、のびのびタイム等)を設定し、読書の習慣化、話す力、読解力、計算力の向上を目指す。 ・少人数やTT等指導形態の利点や特性を生かして、児童一人一人に応じたきめ細かな指導を單元ごとに実施する。 ・「芦刈学習メソッド」をもとに、児童が主体的に取り組み・考える授業を日々実践する。 ・講師招聘による理論研究会を行う。 ・各学年グループを中心に全員が、授業を見せ合う等の実践研究を行う。 ・図書館の開館時間を7時50分とし、朝の利用促進を図る。平成24年度の貸出冊数全校40000冊を目標とし、委員会を中心に取り組む。
	② ICT利活用教育の推進	●ICT利活用教育の推進	ICT利活用教育に関する研修会への参加	佐賀県、小城市が開催するICT利活用教育研修会に一人1回以上参加する。	・佐賀県教育センターの講座を受講する。 ・佐賀県教育委員会主催の講座を積極的に受講する。 ・小城市教育委員会主催の講座を積極的に受講する。 ・情報教育担当を中心に校内研修会を開催する。
	③「心の教育」教育相談の体制作りと充実	●心の教育	教育相談・特別支援教育体制の確立	SCの活用・保護者の相談回数を増やす。 配慮を要する子についての校内研修を充実させる。	・教育相談だよりを定期的に発行し、保護者や児童への相談日を知らせSCの一層の活用を図る。 ・配慮を要する子についての教育相談研修会を年6回以上行う。また、指導の記録を記入する時間を設定する。 ・なかよしアンケートを6月に実施し、子どもの実態を把握し、学級経営に活かす。 ・個別の支援計画に基づき、子どもサポーターの効果的な活用と具体的な支援体制・方法を探る。
	○道徳教育	道徳指導の充実を図る	道徳の授業実践を充実させる。年間1回以上の授業公開。	・フリー参観デーや授業参観(4月、10月、11月、1月)を活用し、保護者・地域の人に授業を公開して授業改善に努める。	
	④「生きる力の育成」基本的な生活習慣、学習習慣の定着	●健康教育	運動習慣の改善や定着化	週3日以上、休み時間に元気に遊ぶ児童が70%以上をめざす。	・運動やあそびに使える用具(一輪車等)を児童が使いやすいように整備・設置する。 ・昼休みに体育館を利用できる日を週に一回以上設定し、運動したり遊んだりできる機会を確保する。(6月まで) ・各学年の実態に応じて、学校栄養職員とのTTによる指導を年間1~2回行う。 ・親子おにぎり弁当作りや会食を設定し、保護者と児童が共に食育について考える機会をもつ。(5月)
	○生徒指導	望ましい生活行動様式の確立	共通理解に基づく生活指導を行う。 挨拶の励行を計画的、重点的に行う。	・家庭教育指針のふり返りをする。(4月、6月、9月、10月、11月、1月、2月) ・挨拶の具体的な向上目標を学期ごとに決めて行う。 1学期元気よく2学期進んで3学期心をこめて ・挨拶運動を運営委員会を中心に行う。(6月、9月)	
	「開かれた学校」家庭・地域・保護者との連携				
	学校運営	○開かれた学校作り	家庭・地域との連携強化	学校ボランティア登録人数175人 関与授業時数50時(朝・通年を除く)	・学校支援ボランティアの周知を進めることで登録者数の増加を図る。 ・学校支援ボランティアの人数増により支援可能な授業種類の増加と学校の受入態勢を広げる。
	本年度の重点目標に含まれない共通評価項目				
	学校運営	○学校経営方針	重点目標の周知	学校目標を知っていると回答する割合を80%以上とする。	・教育目標の「あいあしのこ」の周知を図る工夫をする。 ・児童や保護者が見やすい場所に掲示したりPTA総会で説明したりする。 ・職員会議(職員)、全校集会(児童)等で十分時間をとって説明する。
特定課題	●小学校低学年の学習環境の改善充実	小学校低学年の指導に関する計画書の内容を達成する	低学年の基本的な学習習慣と基本的な生活習慣の定着をめざす。	・話型、聴型を活用し、低学年から話を聞く態度を徹底して身につけさせる。 ・生活ふりかえり表を作成する。低学年で共通した目標を設定し、基本的な生活習慣の定着を図る。	
	○小中連携	小中連携の強化	小中一貫を見据えた共通理解を図る。	・小中合同の体育大会を開催し小中のつながりを強める。 ・小中合同縦割り班によるあいさつ運動等の活動を行う。 ・小中学校の授業交流を計画的に実施し、芦刈メソッドの定着をめざす。	